

令和5年度

総務文教常任委員会

行政視察報告書

【視察期間】 令和5年10月10日～13日

【視察先及び視察テーマ】

・香川県善通寺市

『市庁舎複合施設としての図書館整備事業の取組について』

・香川県丸亀市

『市民会館整備事業について』

・香川県観音寺市

『のりあいバス事業について』

・広島県呉市

『リノベーションまちづくり事業の取組みについて』

【参加委員】

委員長 東川 孝義

副委員長 高野 美枝子

委員 遠藤 隆男

川村 幸栄

中島 孝幸

総務文教常任委員会の視察報告を申し上げます。

当委員会では「複合施設のあり方」を調査・研究のテーマとして、10月10日から13日までの4日間、香川県善通寺市、丸亀市、観音寺市、広島県呉市の4か所の行政視察を行いました。

■ 善通寺市「市庁舎複合施設としての図書館整備事業の取組について」

善通寺市では、名寄市での公共施設再配置に伴う複合施設の検討に合わせて、「市庁舎複合施設としての図書館整備事業の取組について」視察を致しました。善通寺市の市街地は市の中央部を総本山善通寺からの広がりをもって形成されており、中心部には陸上自衛隊善通寺駐屯地、独立行政法人国立病院機構、大学などの公共機関が多く立地し、独特な市街地を構成していました。



善通寺庁舎2階の図書館見学

市庁舎と図書館の複合施設整備事業の目的は、「まちの活力創出の基本方針」として、図書館を中枢拠点区域内での移設または改修を検討し、公共施設の機能を複合化させることにより、多様な市民の利用を誘発し、時間・曜日の変化による流動性のある活用を目的とし、併せて複合化によるコスト削減も考慮したとのこととあります。

新図書館のコンセプトは「本と出会い、人がつながり、夢をはぐくむ図書館」とし指定管理者にて運営されており、民間事業者が持つノウハウの有効活用により、香川大学並びに善通寺市との連携事業、館内にはカフェスペースや講演会やお話会など、様々な事業が展開されております。高齢者や家族連れが多くなり、持続的な賑わいを生み出すことが出来たとのことで、本市における公共施設の再配置においても、どのような複合施設が適しているか、将来を見据えた中で十分な検討を行い、本市に適した公共施設の再配置を研究する上で大変参考となりました。

■ 丸亀市「市民会館整備事業について」

丸亀市では当市の公共施設の老朽化に伴う再編に合わせて、「市民会館整備事業について」視察を行いました。市民会館整備事業を検討するにあたり、仮称「みんなの劇場整備基本構想」で掲げた3つの基本理念①豊かな人間性を育む②誰一人孤立させない③切れ目ない支えあいの理念に基づき、丸亀城のある景観を損なうことなく、市民のために使ってもらふ施設として、市民との車座集会や整備意見交換会を実施し、市民から要望のあった、劇場内の和室についても多様な用途を確認しながら設置をするとのことでした。

計画から整備に至る経過の中で強調されていたのは、「劇場をどうするか」より「劇場でまちをどうするか」ということでありました。文化芸術が持つ力で、福祉・医療・教育をはじめ、様々な分野の課題を「横串で刺す」ことにより「切れ目ない支えあい」ができる社会を形成する役割を担うと言われておりました。

当市の公共施設の建て替えにおいても、このまちをどうするのか、市民にとって何が必要なのか、市民のために使ってもらえる施設なのか、また、医療、福祉、教育など、様々な分野からの視点が欠かせないことを、改めて学んだ視察でありました。



丸亀市では市民会館事業の説明を受ける

■ 観音寺市「のりあいバス事業について」

観音寺市では、名寄市でのAI活用型オンデマンドバスが運行されるのに先立ち、地域公共交通を担う「のりあいバス事業」がどのように展開されているのか視察を行いました。

観音寺市でののりあいバスが開始されたのは、民間のバス路線が廃止された事ことによるジャンボタクシーの運行を開始したのがスタートであります。その後市町村の合併に伴い、今までの流れを継承し、5路線のうち2路線はバス会社の運行委託、残りの3路線は観音寺市のシルバー人材センターが運行を担っております。

現行の5路線のうち、1路線が1日7便、4路線が1日4便の運航であり、出発地から到着地まで運行したあと、逆方向への折り返しとなっており、実際には、倍の便数があると思われます。

実際の利用方法は、フリー乗降制をとっているため、原則として手を挙げればどこでも乗車できますが、手を挙げたのにバスが止まらなかったという苦情や、バス停以外の所で急停車するため後ろから来る車に迷惑をかけるといった問題も発生しているとのことです。

今後は予約制のオンデマンドバスの運行を視野に入れているとのことで、現在、名寄市で取り組んでいるA1活用型オンデマンドバスは、先進的な運行方法であると理解いたしました。



観音寺でののりあいバス事業を学ぶ

■ 呉市「リノベーションまちづくり事業の取組みについて」



呉市でのリノベーションまちづくり事業を学ぶ

広島県呉市では「リノベーションまちづくり事業の取組について」、今あるもの（遊休不動産・公共空間）を新しい方法で再生・活用して、それを核にまちを連鎖的に変えるため、リノベーションスクールを開催して、まちづくりのプレイヤーを育成するとともに、エリアの将来ビジョンを策定する視察を行いました。

呉市の商店街の特徴として、売り上げ・通行量は平成初頭がピークで、買い物の市外流出、増え続ける空き店舗・空地が多くなりましたが、それでも固定資産税の稼ぎ頭であり、新規創業の場として「強い店」を誘致するための施策として、「来てくれ店舗公募事業」に取り組んでいました。

具体的には、半径 200～300 メートルの小さなエリアを集中的に取り組み、周辺に波及させながら変えていくリノベーションまちづくりを進めてきたとのこと。

まちづくり事業の構想とポイントとなる施策では、複線的な取組、民間と行政の役割を明確にして、企業版リノベーションスクールを作り、市民の人材発掘と育成に取り組んでいました。

市街地再生リノベーションのまちづくりの担当者の熱意に感動したと同時に、不動産業者の前向きな姿勢を見習わなければと感じたところです。

名寄市も中心市街地活性化のためには、不動産業者などとの議論を深め、ある程度の期間と資金は確保しつつ、市民や行政との話し合いを持ちながら、夢のあるまちづくりに取り組んでいかなければと感じました。

総務文教常任委員会のテーマであります「複合施設のあり方」を含めて、所管する事項について、今回の先進地視察は得ることが多くあり、今後の名寄市の施策について提言を行っていきたいと考えております。

以上、総務文教常任委員会の視察報告といたします。